Association of food access and neighbor relationships with diet and underweight among community-dwelling older Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2017-06-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲村, 秀子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3185

論文審査の結果の要旨

高齢者の生活機能の維持のためには適切な食事が重要であるが、食料品へのアクセスや近隣関係との関係が大切であると考えられる。そこで今回、大規模データでの解析を目的として、日本老年学的評価研究 2010 匿名化データセットを用いた分析を行った。すなわち、12 道府県 31 市町村に在住の 65 歳以上で要介護認定を受けていない住民を対象として、健康や生活状況に関する自記式質問紙調査を行った。約 17 万人に郵送し、約 11 万人から回答を得（回収率 66%）、欠損値のない適切な回答の約 10 万人を分析対象とした。

その結果、食料品アクセス不良、近所付き合いなしは、男女共に野菜・果物の低摂取と関連しており、特に男性では食料品アクセスと近所付き合いに関連があった。男性の1人暮らしは野菜・果物の低摂取に比較的強い関連を示し、低等価所得は男女ともに野菜・果物、肉・魚の低摂取に関連していた。また、学歴 10 年未満は、女性で低体重と負の関連を示した。

本研究により、近所付き合いによって、食料品アクセス不良による野菜・果物、肉・魚の摂取低下を緩和させる可能性が示された。これまでも、小地域での報告が見られるが、全国の地域での大規模データでも同様の結果が得られたことは有意義であると考えられる。さらに、男性において食料品アクセスと近所付き合いに交互作用があることを今回初めて明らかにした。近所付き合いは、海外での報告には認められず、日本古来の「ご近所さん」の有用性が初めて示されたことになる。調査は横断的に行われ、一時点での結果で、調査項目が限定されるなどの限界はあるものの、これからの高齢化社会でコミュニティが行うべき方針に繋がる知見と考えられた。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　前川 真人
副査　山末 英典　　副査　加藤 明彦